

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	Access 抗菌薬使用促進を目的とした外来経口抗菌薬適正使用への取り組み
所属科*	薬剤部
研究責任者*	山本 諭
研究実施期間	開始 西暦 2025 年 1 月 1 日 ~ 終了 西暦 2026 年 9 月 30 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	(症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 年 月 日 ~ 至 西暦 年 月 日
研究概要*	【目的】 外来における経口抗菌薬の適正使用は AMR 対策の重要課題であり、WHO は全使用量のうち Access 抗菌薬の使用割合 60%以上を目標としている。今回抗菌薬適正使用支援チーム (AST) で院内の Watch 抗菌薬の使用状況を把握し、処方意図を解析するとともに、処方医への情報提供や切り替えを提案した。今回、AST の介入が抗菌薬使用量に与える効果を調査した。 【方法】 まず外来 Watch 抗菌薬使用量を分析し、使用量の多い抗菌薬としてレボフロキサシン (LVFX)、ミノサイクリン (MINO) を介入対象として選定した。処方意図については診療録をもとに後方視的に解析した。介入として泌尿器科医師に対し、院内アンチバイオグラムを提示し、軽症尿路感染症の第一選択として Access 抗菌薬を提案した。また外科医師に対し、めまいなどの副作用と Watch 抗菌薬であるという両観点から MINO の代替として Access 抗菌薬ドキシサイクリン (DOXY) を提案した。介入前後における抗菌薬使用量 (DDDs) を J-SIPHE の集計データから比較した。 【結果】 介入前 3 か月の解析において泌尿器科での LVFX の DDDs は 692.3、介入前の外科におけるテトラサイクリン系薬のうち MINO の使用割合は 100%であった。処方意図の解析では、LVFX は尿路感染症への経験的投与が多く、MINO は抗